



福岡県医発第 651 号（総）

平成 22 年 6 月 18 日

各 医 師 会 長 殿

福岡県医師会

会長 松 田 峻一良

（公印省略）

第 69 回（平成 22 年度）「西日本文化賞」候補者の
推薦について（お願い）

標記について、西日本新聞社より推薦方依頼が参りました。

つきましては、別添の賞規定及び、下記の募集規定をご参照の上、該当者があ
りましたら、7 月 13 日（火）までに本会宛ご推薦下さいますようお願い申し上げま
す。

なお、該当者がいない場合もその旨ご連絡願います。

【募集規定】

1. 別紙候補者用紙に必要事項をご記入ください。
2. 推薦理由ならびに業績内容は、できるだけ詳細にご記入ください。また、
参考資料のある場合は添付してください。
3. 資料は原則として返却いたしません。ただし、返却を要する場合は、業
績欄の番号をマル印で囲んでください。

平成22年 6 月

関 係 者 各 位

西日本新聞社
社 長 川崎 隆生

第69回（平成22年度）

『西日本文化賞』候補者の推薦方お願い

西日本新聞社は西日本地区の文化の発展に資するため『西日本文化賞』を設け、毎年学術および社会文化部門に貢献された方々を表彰してまいりました。受賞者は昭和15年（1940年）に本賞が設定されて以来、昨年度までに338件311人37団体にのぼっています。今年は69回目を迎え、11月3日の文化の日に贈呈式を行うよう候補者の選考準備をはじめています。つきましては、本賞の趣旨をご賢察のうえ、候補者をご推薦賜りたくお願い申し上げます。

【賞規定】

1. 西日本文化賞

賞状および記念品、副賞（100万円）を贈呈します。

2. 受賞者数

①学術文化部門

②社会文化（産業技術、社会事業、芸術）部門

各部門ごと3件とします。ただし、該当者がいないときはこれを除くことができます。

3. 表彰範囲

九州各県および沖縄、山口県の居住者（個人および団体）に限ります。

4. 受賞者の選考方法

官公庁、学校、研究機関、産業文化など団体の推薦に基づき審査のうえ、これを決定します。ただし、社会文化その他特殊のものについては個人の推薦に基づき審査決定することができます。

審査のため西日本新聞社内に「西日本文化賞審査委員会」を設け学術、社会部門につき慎重に審査します。審査の過程において随時各界の学識経験者の意見を照らし合わせて選考の公平を期します。

5. 発 表

平成22年10月下旬西日本新聞紙上に掲載し、推薦者と受賞者あて通知します。

6. 贈呈式

毎年11月3日（文化の日）に行います。



第69回（平成22年度）西日本文化賞候補者

部 門	学 術 文 化 ・ 社 会 文 化
候補者(団体)名	ふりがな
肩 書 ・ 職 名 (団体・代表者)	
生 年 月 日	明・大・昭 年 月 日 (11月3日で満 歳)
出身地または 本籍地	
現 住 所	〒 TEL () - ・ FAX () - e-mail
出 身 校 (最終学歴)	
略 歴	
推 薦 者	ふりがな
肩 書 ・ 職 名	
連 絡 先	〒 TEL () - ・ FAX () - e-mail
推 薦 理 由	

※必要に応じてコピーしてください。(裏面付)

主な業績（著作など）

※資料の返却を要するものは、番号を○で囲んでください。

1.

2.

3.

4.

5.

6.

7.

8.

9.

10.

賞 歴

1.

2.

3.

4.

5.

返却資料送付先
〒

TEL () -

部 門	氏 名	役・職 名	業 績
第60回（平成13年・2001）			
学術文化部門	山 元 寅 男	中村学園大学学長 九州大学名誉教授	医学、生物学の領域における細胞組織の分子解剖学的電子顕微鏡の研究、特に「消化吸収機構の分子解剖学的研究」における功績
〃	花 嶋 正 孝	福岡県リサイクル総合研究センター長	日本における廃棄物工学のパイオニアで「準好気性埋立構造」を開発し、その技術を「福岡方式」として日本全国、アジア各国へ広めた功績
社会文化部門	近 藤 原 理 近 藤 美佐子	障害者共同生活の家「なずな園」運営	障害者との共同生活の家を38年間運営。その実践が、障害者の自立と教育、地域福祉に貢献した功績
〃	高 樹 のぶ子	作家	福岡から恋愛小説を中心に優れた文学作品を発表し続け、日本の文学に寄与した功績

第61回（平成14年・2002）

学術文化部門	持 田 勲	九州大学機能物質科学研究所教授	炭素の構造をナノ（十億分の一）単位で解析し、化石燃料の高度利用と高性能の炭素材を開発した功績
〃	西 田 輝 夫	山口大学医学部教授	角膜治療の基礎医学的研究や治療法の開発において世界に先駆けた成果を上げた功績
社会文化部門	香 月 徳 男	日本水車協会会長	全国から姿を消しつつあった水車の動態保存に力を注ぎ、水車を軸にした多彩な文化活動を展開した功績
〃	井 上 萬 二	陶芸家、国重要無形文化財「白磁」保持者	白磁の技術的水準を高め、伝統磁器に独自の作陶世界を広げた功績
〃	九州国立博物館 誘致推進本部 博物館等建設推進九州会議 九州国立博物館 設置促進財団	本部長＝大野茂九州・山口経済連合会長 会長＝大野茂九州・山口経済連合会長 理事長＝大野茂九州・山口経済連合会長	九州国立博物館（仮称）の実現に大きな役割を果たし九州の地域文化向上に貢献した功績

第62回（平成15年・2003）

学術文化部門	西 谷 正	九州大学名誉教授	朝鮮考古学の研究を通じて日本の考古学に新たな視点を提起し、東アジアと深くつながった古代日本の姿を明らかにした功績
〃	教育と医学の会	会長＝安藤延男・九州大学名誉教授	月刊誌「教育と医学」を発行、医学・教育・心理の各分野の成果を通して現代の社会問題と取り組み、啓発してきた功績
社会文化部門	鼻 地 三 郎	しいのみ学園園長	知的障害児の教育施設「しいのみ学園」を創設し、養護教育の発展をリードしてきた功績
〃	山 下 惣 一	農業・作家	農業を続けながら文筆活動を通して、現代の「農と食」の問題を啓発した功績
〃	豊 福 知 徳	彫刻家	わが国を代表する彫刻家として美術文化の発展に貢献した功績

部 門	氏 名	役 職 名	業 績
第63回（平成16年・2004）			
学術文化部門	坂 田 利 家	中村学園大学栄養科学部教授	食欲の調節に関する物質を発見するなど生理工学の成果を取り入れた肥満治療法を開発した功績
〃	新 海 征 治	九州大学大学院工学研究院教授	分子機械の創製をはじめ世界の分子化学の研究をリードした功績
社会文化部門	中 村 旭 園	筑前琵琶福岡旭会会長	筑前琵琶の奏者として、その伝統保持と普及に努めた功績
〃	古 川 薫	作家	多彩な歴史群像を作品化、人間ドラマと歴史を発掘した功績
〃	長崎の証言の会	代表委員＝濱崎均氏、内田伯氏、廣瀬方人氏	被爆者の証言を通して被爆の実相を伝え、原爆の非人道性を訴えてきた功績
〃	博多祇園山笠振興会	会長＝後藤久義氏	博多祇園山笠を全国区の祭りにし、世界に向けて「博多」をアピールした功績
第64回（平成17年・2005）			
学術文化部門	平 田 寛	九州大学名誉教授	九州の仏教美術の調査・研究に尽力、修復・保護の面でも多大な貢献をした功績
社会文化部門	武 野 要 子	福岡大学名誉教授	博多・長崎の商人研究と、東アジアの文化交流に尽くした功績
〃	松 井 猛	元高崎山自然動物公園ガイド	高崎山のサルの「家系図」を作り、大分観光に寄与した功績
〃	熊本赤十字病院国際医療救援部	代表＝部長・浅井淳氏	長年にわたり国内外の災害や紛争などの被害者救護に取り組んできた功績
第65回（平成18年・2006）			
学術文化部門	原 田 正 純	熊本学園大学教授	水俣病、とくに胎児性水俣病の臨床的・疫学的研究に尽くした功績
〃	岡 村 繁	九州大学名誉教授	「文選」「白氏文集」など中国古典文学の研究に尽力し、多くの後進を育てた功績
社会文化部門	中 島 宏	陶芸家、日本工芸会理事	独創性豊かで芸術性に富む青磁の世界を確立した功績
〃	宅老所「よりあい」	代表＝代表・下村恵美子氏	認知症介護に適した「宅老所」を開設、ケアの質向上に貢献した功績
〃	ブリヂストン吹奏楽団久留米	代表＝団長・井上芳治氏	実業団ブラスバンドとして、地域文化振興に貢献した功績

部 門	氏 名	役 職 名	業 績
第66回 （平成19年・2007）			
学術文化部門	池 田 紘 一	長崎外国語大学学長	独文学研究やユング著書の翻訳に尽力するとともに、日独文化交流の発展に寄与した功績
社会文化部門	第十四代 酒井田柿右衛門	陶芸家	襲名後四半世紀にわたって柿右衛門様式を継承しながら、新しい磁器の創造に尽くした功績
〃	佐 木 隆 三	作家、北九州市立文学館館長	裁判傍聴などを通し人間の本質を見つめ、多くの著作に表してきた功績
〃	九重の自然を守る会 代表=会長・嶋田裕雄氏		50年近くにわたり、くじゅうの自然保護に貢献した功績
第67回 （平成20年・2008）			
学術文化部門	菊 竹 淳 一	九州産業大学教授	西日本地域の仏教美術研究の基礎を築き、東アジアの交流史研究に寄与した功績
〃	桑 野 信 彦	九州大学特任教授	がん治療の基礎研究をリードし、現在のオーダーメイド治療の基盤を構築した功績
社会文化部門	弥 勒 祐 徳	画家	西都原の桜や各地の神楽などを描いて独自の画境を開き、宮崎の地域文化を紹介した功績
〃	阿 部 真 也	九州情報大学客員教授	流通経済学の基礎理論の発展に尽くし、九州各都市の商業調査、まちづくり提言活動に寄与した功績
〃	王 貞 治	福岡ソフトバンクホークス 最高顧問	ホークスの監督として十四年間、九州のプロ野球ファンに夢と感動を与え、地域の社会文化の向上に貢献した功績
〃	十八世紀音楽祭協会 会長・中里 隆氏		「福岡古楽音楽祭」を創設して日本有数の古楽音楽祭に育て上げ、地域文化の向上に寄与した功績
第68回 （平成21年・2009）			
学術文化部門	荒 木 見 悟	九州大学名誉教授	九州を拠点に、日本の中国学研究深化と近世儒学研究に寄与した功績
社会文化部門	吉 永 正 春	九州戦国史研究家	九州の戦国史を長年研究し、執筆活動を通じて郷土の武将たちに光を当てた功績
〃	葉 祥 栄	建築家	柔軟で斬新な感覚の建築デザインにより、国内外の建築文化発展に寄与した功績
〃	池ノ上 克	宮崎大学医学部教授	地域の拠点病院をつないだ独自の産科救急体制システムを構築し、周産期医療充実に寄与した功績

（注）「福日文化賞」を受け継いだ「西日本文化賞」は第6回（昭和20年4月22日表彰式）後に戦後の混乱期を迎えて、昭和21年は見送り、翌22年4月13日に第7回表彰を行なったが、再び中断した。24年から毎年11月3日文化の日に表彰することを定めて復活した。また、25年の第9回から表彰対象を学術文化と社会文化の二大部門に分けた（「西日本新聞百年史」より）